

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（実社会対応プログラム）  
公募型研究テーマ 研究概要

課題（研究領域）

制度、文化、公共心と経済社会の相互連関

研究テーマ名

私益と共益が錯綜する公共的意思決定のプロセスデザインに関する研究

責任機関

国立大学法人北海道大学

研究実施期間

平成27年10月～平成30年9月

研究プロジェクトチームの体制

氏名	所属機関・部局・職名
<u>研究代表者</u> 大沼 進	北海道大学・大学院文学研究科・准教授
<u>分担者</u> 宮内 泰介	北海道大学・大学院文学研究科・教授
肥前 洋一	高知工科大学・経済マネジメント学群・教授
青柳 みどり	国立環境研究所・社会環境システム研究センター・環境計画研究室長
<u>久保田 学</u>	公益財団法人北海道環境財団
<u>安保 芳久</u>	公益財団法人北海道環境財団

※実務者は氏名に二重下線

配分（予定）額

（単位：円）

平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
1,920,000	4,300,000	3,250,000	1,800,000

※平成28年度・平成29年度・平成30年度については予定額

研究目的の概要

公共的な決定が求められる場面で、ステークホルダーが対立したり、私益と共益がト

レードオフの関係にあるときに、“目標の共有化”を鍵概念に、共有化された規範の形成・変容過程を明らかにすることで、実社会での合意形成を可能にするための提言に繋げる。

#### 研究計画の概要

社会的ジレンマ（個々人が自己利益を追求すると社会全体として不利益を被ってしまう状況）研究を起点とし、北海道における政策策定プロセスの協働実践と事例調査、事例をモデルにしたゲーム研究や社会調査を用いて実証していく。これらの研究から得られた知見を統合し、政策提言としてとりまとめ提出する。